

|        |   |
|--------|---|
| 学校教育目標 | 未来を拓き、心豊かにたくましく生きる力を育む                    |
| 目指す学校像 | 百年余りの本校の歴史を大切に受け継ぎ、信頼を土台とした子ども一人ひとりが輝ける学校 |

|      |  |
|------|--|
| 重点目標 | 1 児童一人ひとりが主体的に学び、個の力を最大限に伸ばし、どの子どもも取り残さない教育活動を展開する<br>2 自他の命を大切、尊重し心豊かな児童の育成を図る<br>3 地域とともにある学校づくりを推進する<br>4 安心・安全で美しく整えられた教育環境づくりを進める<br>5 教職員の資質向上を図り、持続可能な教育活動を実践する組織づくりに取り組む |
|------|--|

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

|     |   |              |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上)  |
|     | B | 概ね達成 (6割以上)  |
|     | C | 変化の兆し (4割以上) |
|     | D | 不十分 (4割未満)   |

| 年度 |  | 学校自己評価   |  |  | 年度評価  |     | 学校運営協議会による評価  |  |
|----|--|--|--|--|---|-----|---|--|
| 番号 | 現状と課題  | 評価項目   | 具体的方策  | 方策の評価指標  | 評価項目の達成状況   | 達成度 | 次年度への課題と改善策   | 実施日 令和 8年2月13日   |
| 1  | ○学力の本校平均は、市の平均と比較し、ある程度高い傾向にあるが、学習への関心や意欲がさほど高くない現状が見られており、高学年になる程顕著にあらわれている。<br>○学力における個人差が大きく見られ、2極分解の状況が特に算数において顕著にみられている。<br>○特に低学年において、姿勢維持や持ち物の管理ができない児童が見られ、そのような児童は学習意欲も低い状況が見られる。 | 「学びの自律化」を図る指導の充実<br><br>児童一人ひとりのニーズ、実態に応じた指導の充実                        | ①授業において学ぶ目的(どのような力が付くのか)を理解し、目標(どのような学びを行うのか)もたせる指導を行う。<br>②学が見通しを立てさせ行動できる(手順を立て、理解し、努力する)力を育む。<br><br>①算数科において1・2・6年ではチームティーチングを、3・4・5年では少人数指導を実施する。また、少人数指導では、児童選択制による習熟度別指導を実施する。<br>②教科担任制授業を3～6学年で実施、1・2年ではお徳の交換授業、3～6年では総合的な学習の時間(けやきタイム)で学年合同授業を実施する。        | ・市学力調査生活習慣に関する調査の「学びに向かう力」「主体的対話的で深い学び」等の項目で、3学年以上で肯定的評価90%を超えている。<br><br>・市学力調査生活習慣に関する調査の「学習状況(算数)」で5学年は90%以上、その他の学年では、前年度と同様な状況を保っている。<br>・市学力調査生活習慣に関する調査の「学びに向かう力」「学校生活」等の項目で、全学年で肯定的評価90%を超えている。 | ・市学力調査の結果が出ていないため、評価指標が達成できているか未定であるが、学校課題研修における授業力向上の調査では、肯定的に捉えている教員が84%で、児童の姿容では、学習意欲の向上が一番に挙がっている。また、児童アンケートでも、「楽しく授業を受け、授業内容がわかっているか」の質問で96%の児童が肯定的回答をしており、概ね達成していると思われる。<br><br>・算数では3～5年で習熟度別少人数指導、1・2・6年は完全チームティーチングを実施した。特に習熟度別少人数指導では、99%の児童が「楽しい」「どちらかという楽しい」と回答しており、自分に適した学習を進めることに喜びを見出していることが分かる。   | B   | ・ルーブリック評価等を実践を通して研究を深め、「学びの計画性」等の力の育成をおこなってきた。「学びの自律化」は探究的な学びの成立の土台となるため、引き続き取り組んでいくようにする。<br><br>・教科担任制は、引き続き3～6年で実施していく。<br>・算数では、習熟度別少人数指導を3～6年まで拡大して実施していく。習熟度別指導では、学力が高い児童への指導の在り方が今年度実施して課題として浮き彫りとなったため、その指導法についても研究を深化させる。  | ・算数において少人数指導に力を入れているのは素晴らしい。<br>・学力や授業については状況、様子が分かったが、運動面での状況についても説明してほしい。<br>・探究的な学びが注目されているが、子どもたちの学習への主体性などのような状況か。      |
| 2  | ○落ち着いた生活できている児童が多いが、その中でも、相手を尊重しないたわいのない言葉からトラブルに発展するケースが見られる。<br>○児童には、様々な発達上の課題、特性が見られるが、それを理解できない、認められない保護者が見られ、そのことに起因して問題行動や不登校に発展するケースが徐々に増えてきている。                                   | 人権意識や思いやりの基盤である「三つの基本」の定着と人権意識の浸透<br><br>一人ひとりの児童のWell-beingを大切にす支援の充実 | ①三つの基本の指導を全校挙げて力を注ぐようにする。特に「日本一心のこもったあいさつができる学校」を中核として保護者、地域と連携して取り組む。<br>②多様性を認め合う「みんなちがってみんないい」の意識を道徳教育、人権教育の一層の充実を図ることで浸透させる。<br><br>①校内教育支援センターSola ルームを中核に不登校児童や課題を抱えた児童の支援の充実を図る。<br>②特別な支援を必要としている児童への支援体制の確立を図る。<br>③いじめや生徒指導上の課題に、生徒指導委員会等組織を活用し毅然とした対応を図る。 | ・学校評価アンケートで児童の肯定的評価が90%以上、保護者の肯定的評価が「学校生活」で90%以上、「あいさつ」で70以上とする。<br><br>・学校評価保護者アンケートで以下の項目を達成する。<br>1 「いじめ」では80%以上<br>2 「教育相談体制」では92%以上の現状維持<br>3 「生徒指導」では90%以上                                       | ・あいさつに関する指導では、日頃の学級指導等の他に、児童主体の活動として児童会が中心となってあいさつ運動を展開している。<br>・学校評価に関わる児童アンケートでは、あいさつに関する項目が90%、3つの基本に関する項目が94%の児童が肯定的評価をした。保護者アンケートではあいさつに関する項目で71%の保護者が肯定的評価をした。<br>・多様性に関する保護者アンケートでは、89%の保護者が肯定的評価をした。<br><br>・不登校児童は存在するが、Solaルームにつなげられた案件はなかった。しかし、不登校児童に対し、個別に家庭等と連携し、支援を行っている。<br>・特別支援教育として弾力的運用や通級指導、日本語指導の実施、教育相談につなげること等適切に実施することができた。<br>・保護者アンケートでは「いじめ」82%「教育相談」97%「生徒指導」92%の肯定的評価を得た。 | A   | ・相手意識の尊重への指導は、朝会等での講話や学級指導等あらゆる場面で行ってきており、ある程度の意識向上が図られてきている。しかし、以前として人間関係でのトラブルやいじめの案件は発生している。次年度においては、新たな手立てをもった指導の充実と繰り返し繰り返しでの指導の徹底を図っていく。<br><br>・児童への支援体制は、今後も継続し、児童に寄り添い、児童、保護者のニーズをしっかりと把握して支援をしていくようにする。<br>・いじめ問題については早期発見を重視し、「心と生活のアンケート」の他に毎月簡易アンケートを実施する、教育相談ポストをデジタル化し、アナログと併用して児童が相談しやすい環境を整えていく。 | ・保護者の児童への理解や学校の取組への理解までのような状況か。<br>・教育相談ポストをデジタルとアナログの両方で運用するとのことであるが、デジタルにした場合に教員の見逃し等が起きないか心配である。子どもたちの入力の確認などのように行っているのか。 |
| 3  | ○三世代で暮らしている児童が多く見られ、安定した家庭も多く落ちついて過ごしている児童が多い。<br>○地域では、本校を卒業した方が多く、愛校心があり協力的である。<br>○保護者は、学校に児童を送り届けたりする家庭も多く、懇談会の出席率も高いことから学校への関心や理解が全体的に高いことが伺われる。                                      | 地域に根ざした教育の推進   | ①学校運営協議会、スクールサポートネットワークを核とし、学校と保護者、地域が協働し、子どもの成長を支え、地域社会作りに貢献する。<br>②家庭と連携し、家庭、地域におけるあいさつ運動の奨励を通して健全な生活習慣づくりを推進する。   | ・学校運営協議会を年3回、SSNを年1回開催している。<br>・学校運営協議会で熟議された取組を実践している。  | ・学校運営協議会を年3回、スクールサポートネットワーク協議会を年1回、防犯ボランティア協力員連絡会議を年2回(予定を含む)、民生委員児童委員連絡会を年2回(予定を含む)等を実施し、地域との連携を図った。<br>・「参道潤滑」では地域、保護者に協力を呼びかけた協働した取組を実施することができた。   | B   | ・地域を中心とした連携を図る体制は出来上がってきている。具体的取組として地域、保護者と協働して児童の健全な生活習慣作りを行なうようにしていきたい。   | ・正に学校運営協議会の今の取組が表れている。   |
| 4  | ○昨年度リフレッシュ工事が完了し、環境が新たに整えられている。その状況を維持する必要がある。また、校庭やC棟1階廊下は工事が不十分であったため更に整備する必要がある。  | 施設・設備の日常的な点検の実施と不良箇所の迅速な対応   | ①施設・設備の日常的な点検を確実に徹底し、校舎内外の危険及び不良箇所の把握と迅速な修繕を実施する。<br>②普段あまり使用されない居室の整理整頓を行う。   | ・安全点検は毎月定期的に実施する。<br>・学校評価保護者アンケートで肯定的評価90%以上(現状維持)とする。  | ・安全点検は毎月実施し、危険箇所の把握と迅速な修繕を実施することができた。<br>・普段使用が少ない居室の整備は、十分にはできなかった。<br>・保護者アンケートでは、95%の肯定的評価を得た。   | B   | ・次年度は、普段使用が少ない居室の整備と有効活用に取り組んでいきたい。   | ・施設等の管理には問題はない。体育館にエアコンの設置を早急に望む。  |
| 5  | ○教職員集団では、比較的ベテランが多いが、若手教員や経験が浅い教員も多く、教師力の伝承は課題である。<br>○ICTの活用では若手意識がある教員も多く、ICTを含めこれからの教員に求められる能力を育成するために研修は必須である。<br>○在校時間は全体的に改善しつつあるが、一部の教職員が、比較的に長い状況があり、健康面等が心配である。                   | 教職員のキャリア段階に応じた資質・能力の向上   | ①教職員のキャリア段階や適材適所を考慮、生かした学校組織を確立する。<br>②教職員一人ひとりの専門性を高めるための研修の充実を図る。  | ・教職員アンケート肯定的評価を10ポイント以上上昇させる。(昨年度「組織運営」80%「研修」90%)   | ・学年配置や業務分掌等キャリア段階、適材適所を考慮して実施した。その結果、組織運営に関するアンケートでは、100%の教職員が機能的な組織運営が図られていると回答した。<br>・研修では学校課題研修だけで研究授業を3回、その他にも教員が授業を参観する機会を設け、教員が学ぶ場を設定した。研修についてのアンケートでは、100%の肯定的評価を得た。   | A   | ・組織運営については、今年度の方針を継続して実施していく。<br>・研修については、学校課題研修を中心に研究体制を見つめ、より教員が主体的に取り組める方法を模索し、資質の向上につながる研修を実施する。<br>・教育委員会の指導訪問等を活用し資質の向上に取り組む。   | ・教職員の意見で業務改善が図られていることは素晴らしい。   |

|  |  |          |   |  |   |   |   |
|--|--|----------|---|--|---|---|---|
|  |  | 働き方改革の推進 | <p>①終業時刻18時30分、学校閉庁時刻20時、時間外在校時間月4.5時間以内、年間360時間以内を意識したメリハリのある働き方を実践する。</p> <p>②業務の見直しや業務の平準化を図り効率的な業務の遂行、学校運営の推進に取り組む。</p> | <p>・課業日の18時30分までの退勤者の月平均を5ポイント以上上昇させる。(R6 76%)</p> | <p>・終業時刻等を明確にし、夏季休業中には働き方改革に関する研修を実施するなどしてメリハリのある働き方を推奨してきた。18時30分までの退勤者の月平均は79.9%と3.9ポイント上昇した。</p> <p>・業務見直し、平準化のための業務改善委員会を立ち上げ4回実施した。会議の精選（企画委員会の廃止等）や学校行事内容の見直し等に取り組んだ。</p> | A | <p>・Well-beingを追求する働き方を模索し、メリハリのある働き方という視点では教職員にていちやくしつあることが感じられる。但し、次年度以降更に時間外在校時間が30時間以内という目標が示されており、そのためにも更なる教職員の意識改革と業務の効率化を目指していく。</p> |
|--|--|----------|---|--|---|---|---|